

(平成4年9月2日第3種郵便物認可)

第1772号

# Japan Medicine

医療経済・医業経営情報紙

©じほう 2010 禁無断複写



株式会社じほう

購読申込み専用電話 03-3265-7660  
購読申込み FAX ☎ 0120-65-7751

■振替口座 00180 - 8 - 900480 番  
■購読料 1年 49,770 円 (税込価格/送料当社負担)

【東京本社】〒101-8421 東京都千代田区一ツ橋 2-6-3 一ツ橋ビル (新聞事業本部) TEL03-3265-9351  
【大阪支局】〒541-0044 大阪府大阪市中央区伏見町 2-1-1 三井住友銀行高麗橋ビル TEL06-6231-7061 (代表)

# an Medicine

医療経済・医業経営情報紙

©じほう 2010 禁無断複製

込み専用電話 03-3265-7660  
込み FAX 0120-65-7751

■ 振替口座 00180-8-900480 番  
■ 購読料 1年 49,770円 (税込価格/送料当社負担)

【東京本社】〒101-8421 東京都千代田区一ツ橋 2-6-3 一ツ橋ビル (新聞事業本部) TEL03-3265-9351

【大阪支局】〒541-0044 大阪府大阪市中央区伏見町 2-1-1 三井住友銀行高麗橋ビル TEL06-6231-7061 (代表)

医業経営コンサルタント学会シンポ

## 連携は医療再生の基軸



日本医業経営コンサルタント学会が17日から18日まで、神戸市で開かれた。18日のシンポジウムでは「患者の利益の保護から見た地域連携を考える」をテーマに取り上げた。病院と診療所の医師が講演し、それぞれ経営者の立場で地域医療連携の重要性を強調した。

済生会福岡総合病院の岡留健一郎院長は、DPC対象病院の院長として「DPCを追い風にする医療とは急性期医療への特化と機能分担にはかならない」と強調。「機能分担を進める上で医療連携の重要性がますます高まる」と指摘した。同病院は2002年に医療連携室を立ち上げ、紹介患者を受け入れる前方連携とともに、退院後の患者をフォローする後方連携にも力を入れてきたことを紹介し、患者の紹介件数・紹介率の増加や長期入院患者の減少、平均在院日数の短縮など、経営上も大きな効果を生み出すことになったと説明した。

その上で岡留院長は、後方連携では①医療レベルが病状に合った適切な医療機関を紹介する②保険の種類、経済状態、家族状況を考慮する③患者の不利益にならない④転院先

を退院(転院)するときの状況も考慮する一の4点に十分配慮する必要があると指摘し、医療ソーシャルワーカー(MSW)が果たす役割の重要性を強調した。同病院では毎週、MSWを中心に看護師、事務職がチームを組んで連携施設を訪問し、各施設の状況把握に努めているという。



岡留氏

長尾クリニック(兵庫県尼崎市)の長尾和宏院長は、「地域医療連携は医療再生の基軸になる」と見通し、その前提として診療所機能と病院機能を明確に分離する必要があるとの見方を示した。機能分離をベースにした医療連携では、患者は診療所と専門病院など高度な医療機関を併診するようになると指摘。こうした医療連携システムを広く国民に啓発すべきと主張した。その一方、地域医療連携に必要な医療機関情報がまだ十分に活用さ



長尾氏



邊見氏

れていない現状を問題視。インターネットのウェブサイトを通じた地域住民への情報提供など、ITを活用した医療連携の効率化を提言した。

赤穂市民病院の邊見公雄名誉院長(全国自治体病院協議会長)は、同病院が10床の開放病床を設けるなど、「1患者2主治医制」を目指して地域医療連携を積極的に進めていることを紹介した。地域に開かれた病院づくりに向け、病院内のボランティア活動も広く受け入れているという。

中央社会保険医療協議会委員の立場で、10年度診療報酬改定では救急搬送患者地域連携紹介加算と同受入加算の新設、地域連携小児夜間・休日診療料の引き上げなど、地域医療連携を後押しする項目が幅広く盛り込まれたことも説明した。